

令和5年度 自己評価表

愛媛県立松山商業高等学校 (全日制)

学校番号 (25)

教育方針	個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求する人間の育成に努め、新しい職業観のもとに豊かな情操を身に付け、勤労と責任を重んずる資質を養い、国家社会の有為な形成者として創造性と実践力に富む心身ともに健全な商業人の育成を期する。	重点目標	地域社会に根ざした商業教育の推進 ー地域の持続的発展を担う人材の育成ー
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------	----------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	学校生活の基本の徹底	さわやかな「挨拶」ができる生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	C	生徒・保護者は挨拶ができていると考えているが教職員から見るとできている生徒が減少していると感じている。	教職員自らが、生徒に対してさわやかな相手に伝わる「挨拶」を心がける。
		端正な身だしなみができる生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	A	生徒の自己評価では98%ができていると回答している。	男子の頭髪が乱れている傾向にある。全教職員が意識統一をして端正な身だしなみができるよう導く。
		皆勤率50%以上、年間出席率99.0%以上を目指す。 A:50%,99% B:45%,98% C:40%,97% D:35%,96% E:35%未満,96%未満	C	5月に新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことや、感染症を広めないよう慎重な行動をとるようになったことが、皆勤率や出席率の低下の原因と考えられる。	学校生活における感染症の予防を徹底するとともに、学校生活を有意義なものとする。
		清掃の意味を理解し、積極的に取り組む生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	C	昨年度以上に生徒と教職員の評価に開きがあった。感染症の問題で、教職員の指導がしづらくなったことも影響していると思われる。	清掃教育は人間教育でもあるので、学校生活全般での生徒指導に教職員全員で取り組むとともに、担当教員が年度当初に清掃手順をしっかり指導する。
	交通ルール・マナーの遵守	自転車のヘルメット着用率100%、重大交通事故0件を目指す。 A:100% B:95% C:90% D:85% E:85%未満	B	着用率100%は達成できていない状況にある。地域の人からご指導をいただくこともある。	生徒にヘルメット着用の意義を繰り返し伝えると共に登下校時の指導を地道に続ける。
	豊かな人間性と思いやり	いじめ発生件数0件、または、早期発見・早期対応に努め、早期解決 100%を目指す。	C	2つの事案で計5件のいじめをいじめ・不登校対策委員会において認知することとなった。関係教職員が連携して、生徒への聞き取り・保護者の説明等に当たってはいるが、十分に解決していない。	いじめはどの学校でもどの生徒にも起こりうるという認識を共有し、些細なことも見逃さず、これまで以上に早期発見・早期解決を目指して、教職員が組織的な対応に当たっていく。
特別活動	地域との交流、ボランティア活動等に参加する生徒100%を目指す。 A:90% B:80% C:70% D:60% E:60%未満	A	授業やイベントのボランティア活動には積極的に参加する生徒が多く熱心に取り組んだ。	交流、ボランティア活動の意義を理解させ、積極的に参加する生徒の育成を図る。	
	学校行事の活性化	学校行事に主体的に取り組む生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	A	運動会、商神祭など学校行事は主体的な態度で取り組めた。	生徒が主体的に取り組める、魅力ある学校行事になるよう工夫する。
	部活動の活性化	四国大会出場12部以上、全国大会出場10部以上を目指す。 A:12部,10部 B:10部,8部 C:8部,6部 D:6部,4部 E:6部,4部未満	C	四国大会出場は、12部であったが、全国大会出場は6部であった。全国大会出場が昨年より少なかった。	より高い目標を持つことで、日々の活動の質を上げていきたい。
		乳幼児、高齢者、地域の方々との交流活動における充実感100%を目指す。 A:100% B:95% C:90% D:85% E:85%未満	C	交流活動には主体的に取り組めたが、充実感にはつながっていなかった。	活動の意義を理解させ、充実感を感じられる工夫が必要である。
	ビジネス実習・現場実習・1000日実習における達成感100%を目指す。 A:100% B:95% C:90% D:85% E:85%未満	B	1000日実習に参加し、マネジメントに関する業務や事業所の手伝いを通して多くのことを学んだ。	実社会の充実を図ることが必要だと感じている。	

学習指導	体験活動の充実	本校と協働活動を行った地域コミュニティの数10以上を目指す。 A:15 B:13 C:11 D:9 E:9未満	B	<豊かな人間性・・・と同様> ①松山市青年会議所主催：地域創生発表会（大学、専門学校、短大の学生）での質疑応答、交流（2年地）、②松山市役所主催：松山アンバサダー「マツワカ」（1～3年希望生徒5名）年間12回の会合で地域課題への解決への提案、③松山市役所（松山港まつり振興会主催：松山港まつり（希望生徒3名）港まつりの準備、運営補助、④松山防災リーダー育成センター主催：ジュニア防災クラブ（1～3年地希望者10名）各種地域防災行事への参加、⑤松山市青年会議所主催：松山市民シンポジウム、松山ビジネススタイルコンテスト（2年地）働き方への学生からの提言提案、⑥花園まちづくりプロジェクト推進委員会主催：お城下マルシェ（3年地）に洋菓子を作成し出店、等に参加し、地域での活動に参加地域課題の解決や地域活性化に貢献した。 53事業所	「マツワカ」の活動には8名が参加している。（松山周遊企画 水口酒造ボトルラベルの考案 松山の魅力ショート動画作成など）ジュニア防災リーダーの活動の年間の行事が分からず生徒への周知ができなかった。松山防災総合訓練には2年生が参加した。防災デイキャンプには1年生（2名が参加した。）防災士受験のための講座にその2名が参加予定している。 部活動との兼ね合いを考え多くの生徒に参加を促せるよう人員構成を考えたい。
		地域イベントに主体的に参加した生徒の延べ人数100人以上を目指す。 A:150人 B:130人 C:110人 D:90人 E:90人未満	A	1年次から3年次まで3年間にわたって実施していた行事や授業に加え、年8回の実習先での学びが充実したものとなった。	行事や日程が、教育活動に効果的に配置できるように精選させたいと考えている。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

学習指導	教科指導の充実	授業の内容がよく理解できる生徒85%以上を目指す。 A:85% B:80% C:70% D:60% E:60%未満	A	生徒対象のアンケートでは90%の生徒が授業の内容がよく理解できていると回答しており、教科指導が充実していると判断できる。	主体的・対話的で深い学びの視点に立ち、ICT機器の活用を含め、さらなる授業改善に取り組んでいく必要がある。
		授業に積極的に取り組む生徒90%以上を目指す。 A:90% B:85% C:80% D:75% E:75%未満	A	生徒対象のアンケートでは92%の生徒が授業に意欲的に取り組んでいると回答しており、生徒が積極的に授業に取り組んでいると判断できる。	家庭学習への取組が不十分であると回答している生徒が多いので、課題等を工夫し、家庭学習の充実を図る必要がある。

進路指導	進路指導の充実	各種資格取得・検定合格者の増加を目指す。	C	数値目標を下回った検定が多く、全商検定試験1級3種目以上合格者は、189名であった。	検定試験は、進路実現や自己啓発に役立つことを理解させ、積極的な資格取得を進めていく。
		進学・就職において希望する進路実現100%、地元企業への就職率90%以上を目指す。 A:100%, 90% B:95%, 85% C:90%, 80% D:85%, 75% E:85%未満, 75%未満	A	就職は、内定率100%を達成した。地元企業への就職率も100%であり、地域社会を支える人材の育成ができた。進学についても、国公立大学の合格者が27名(12/15現在)と昨年度と同等の合格者を出したほか、私立大学等、概ね希望する進路実現ができた。	今後も学力の向上を目指すとともに、キャリア教育の充実を図りたい。また、進学の分野においては、全国の大学に視野を広げ、生徒一人一人に対応した進路指導に努める。
		卒業1年後の就職先への定着率90%以上を目指す。 A:90% B:85% C:80% D:75% E:75%未満	A	令和4年度末卒業生のうち38名が学校斡旋で就職したが、37名(97.4%)は就職先に定着している。	今後もキャリア教育を充実させ、適切な進路指導を進めていく。
業務改善	適切な勤務時間	ICT活用による業務の効率化や休暇を取りやすい環境作りを進め、 <u>在校等時間の把握に努める。</u>	C	校務系グループウェアの活用など、ICTの活用状況は進んでいるが、業務量に偏りがあり、勤務時間が長い教員がいる。	校内人事や各部署の役割分担においては、教職員全員で学校を運営するという考えのもと、業務量の平準化を図る。
	職場環境の整備	健康相談、衛生委員会、管理職による面談等を通じて、教職員の心身の <u>健康状態の把握に努める。</u>	B	心身の健康に関する相談をしやすい環境は整備されつつあるが、体調を崩す教職員が出た。	心身に不調をきたさないためにも、適材適所の役割分担と休暇が取りやすい職場環境を整備する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。